

な臨床研究を積み重ね、診断基準についても再検討する必要があると考えられる。

(2) 有機溶剤

① 『有機溶剤症例』の概観

有機溶剤は、覚せい剤とならび依然として日本における代表的な乱用薬物である。検挙者数は次第に減少しているが、若年で乱用が開始されること、深刻な心身の健康問題や社会的障害をもたらすこと、その入手の容易さなどから、依然として軽視してはならない薬物である。具体的な物質の記載があったのは一部の症例のみだが、以下のようであった。

- ・ シンナー：39例
- ・ トルエン：23例
- ・ ボンド：10例
- ・ ガス類：10例
- ・ ラッカー：5例

『有機溶剤症例』が症例全体に占める割合は17%で、1996年⁸⁾の22.8%、1998年⁹⁾の25.5%、2000年¹⁰⁾の19.6%、2002年の18.7%からみると、若干ではあるが引き続き減少傾向がみられた。しかし、“使用歴を有する薬物”としては1996年以来50%前後と高い水準で経過している¹²⁾(表28)。また、表30に示すように、“初回使用薬物”としては若干減少傾向がみられるものの、覚せい剤を上回り45.1%と最も高い割合であった。和田らによる住民調査¹³⁾においても、誘われた経験を有する薬物、使用経験のある薬物としては有機溶剤が最も頻度が高い。薬物乱用への入り口としての有機溶剤は依然として軽視できない。

② 性・年齢の特徴

『有機溶剤症例』の特徴は、80%が男性で、平均15.7歳(男性15.7歳、女性16.0歳)という低年齢で乱用が開始されることである。これまで他の併用薬物のない単独使用者の割合が2/3程度と高かったが、今回の調査では約1/3であった。前述したように今回は首都圏の一薬物専門医療施設からの報告症例が多かったことで、都市部の多剤併用の傾向が影響していることも考えられる。

③ 喫煙・飲酒歴、薬物使用歴

喫煙は14.3歳、飲酒は15.4歳と、他の薬物症例に比較して最も低年齢で使用を開始しているのは毎回の調査でみられる特徴である。また、有機溶剤には薬物乱用への入り口としての役割、すなわち“入門薬”あるいは“gateway drug”としての役割があることを意味するだろう。一方、単独使用率、依存症候群および(6ヶ月以上の)精神病性障害を呈する割合がそれぞれ約1/3と高いことから、有機溶剤自体の強い依存形成と、長期にわたる精神病性障害の惹起作用があることも忘れてはならない。

使用期間では、1年未満の“初期乱用者”は3.9%で、やや減少傾向にある。また、5年以上の“長期乱用者”の割合は72%と高く、前回調査より増加傾向にあった。

④ 交友関係、逮捕・補導歴

交友関係では、乱用開始前の暴力団との関係を有する割合は男女合わせて12%と高くはないが、非行グループとの関係は49%と高かった。薬物乱用者との関係は、薬物乱用前には60%、乱用開始後も51%と高い割合を示した。また、薬物乱用開始前における薬物乱用者との関係を有する割合においては、女性が男性をやや上回っており、これまで同様の傾向がみられた。逮捕・補導歴は、乱用開始後には男女とも乱用開始前における割合の2~5倍程度に増加していた。

⑤ 薬物使用の契機、動機、入手経路

初回使用の契機となった人物としては、男性では3/4、女性では半数近くが“同性の友人”とし、これはすべての薬物症例の中で最も高い割合であった。また、女性では約3割が“異性の友人”と回答していた。これらは従来と同様の傾向である。

薬物初回使用の動機としては、男女とも“好奇心”が半数でみられ、次いで“刺激を求めて”が14%前後にみられた。薬物入手経路は“友人・知人”によるものが、とくに女性で20%近く、“密売人”は女性の半数近くときわだって高い割合を示した。これらの結果は、「遊び型」としての有機溶剤乱用行動を表すとともに、乱用開始におけるpeer pressure、その後の交友関係あるいは対人関係のあり方に関して、ある種の特徴を示唆するものかもしれない。

また、男性症例では60%近くが最近1年以内の有

機溶剤使用がなく、ここでも薬物中断後の精神症状の長期化、遷延化をうかがうことができる。

⑥ 精神医学的診断

ICD-10による診断分類では、“【F18.2】依存症候群”、“【F18.57】精神病性障害 (>6M)”がそれぞれ1/3強で、“【F18.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”は9.1%と、約20%にみられた前回調査よりは減少傾向がみられた。しかしここでも『有機溶剤症例』において『覚せい剤症例』と同様に、症状の遷延・持続化が問題になっていることがうかがえる。

(3) 睡眠薬・抗不安薬・鎮痛薬

これらの薬物を“主たる使用薬物”とする症例が全体に占める割合としては、各年度の調査において10%前後と高くはない。ただし、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の40~60%がそれぞれ抗不安薬、睡眠薬を併用しており、また『多剤症例(医薬品)』の90%近くが睡眠薬と抗不安薬の併用例であるように、単独使用例はむしろ少ないのが特徴である。

これらの症例においては、これまで男女比が接近していたが、今年度の結果からは、『抗不安薬症例』で男性が、『鎮痛薬症例』では女性の比率が高かった。しかし報告症例数が少なかったため、全体の傾向が大きく変わったと判断することはむずかしい。また、平均年齢は30歳代後半~40歳代半ばと他の薬物症例に比較して高く、初回使用年齢も通常は30歳代前後で、最近1年間における使用率は60~80%前後と高い。

初回使用の契機となった人物については多くが“医師”や“薬剤師”と回答しているが、“自発的使用”も『睡眠薬症例』では20~30%にみられた。主には市販薬を自ら薬局で購入したケースなどが該当すると思われる。実際に報告された具体的な医薬品でも、OTC薬が含まれていた。『鎮痛薬症例』の女性では、“自発的使用”と“同性の友人”が半数近かった。

動機としては、約30~50%が“不眠”、“不安”、“疼痛”といった本来存在したとみられる症状の軽減を目的としていた。なお、これらの『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の中にはいわゆる「常用量依存」例が含まれると考えられるが、本調査からは詳細は不明である。今後の調査で検討する必要がある。また、最近1年以内の使用頻度もき

わめて高く、ほとんどは薬局、医療機関からの入手であった。

使用期間では使用薬物ごとにややばらつきがあるが、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』では8~10年、『鎮痛薬症例』では平均約13年と最も長く、前回同様の傾向がみられた。

診断では、依存症候群の割合が70~90%と高く、『睡眠薬症例』では“急性中毒”も2例報告されている。

一部の症例で具体的に報告された薬物は、以下のようなものであった。

【睡眠薬】

- ・ トリアゾラム (ハルシオン) : 25例
- ・ ブロムワレリル尿素 (プロバリン, “ウット”) : 19例
- ・ フルニトラゼパム (サイレース, ロヒプノール) : 12例
- ・ ニトラゼパム (ベンザリン) : 5例
- ・ プロチゾラム (レンドルミン) : 3例
- ・ ゾピクロン (アモバン) : 2例
- ・ ベゲタミン : 2例
- ・ ソルピデム (マイスリー) : 2例
- ・ エスタゾラム (ユーロジン), ニメタゼパム (エリミン), “ハイミナル”, ジフェンヒドラミン (“ドリエル”), ペントバルビタール (ラボナ), リルマザホン (リスミー) : 各1例

以上のうち、ウット、ドリエルは市販品 (OTC) である。

【抗不安薬】

- ・ エチゾラム (デパス) : 7例
- ・ アルプラゾラム (ソラナックス, コンスタン) : 4例
- ・ ジアゼパム (セルシン) : 4例
- ・ ブロマゼパム (レキソタン, セニラン) : 2例
- ・ ロラゼパム (ワイパックス) : 1例

【鎮痛薬】

- ・ “ナロン” : 6例
- ・ “パファリン” : 5例
- ・ “パブロン” : 3例

- ・ “セデス”：2例
- ・ “イブ”，“ノーシン”，：各1例

(4) 鎮咳薬

『鎮咳薬症例』は1982年以来、毎回の調査で報告されている⁸⁾。今回の調査では、主たる使用薬物としては3.5%を占め、増加傾向にあった前回と同じ割合であった。『鎮咳薬症例』では、平均19.5歳で鎮咳薬の使用を開始し、『覚せい剤症例』などの規制薬物使用症例と同様に性比は3：1と男性優位で、過去1年以内に2/3が鎮咳薬を継続的に使用しており、1/4に有機溶剤使用歴がみられたのは従来と同様の特徴である。覚せい剤使用歴を有する割合は前回の今年度は13%を大きく超えて56%を示し、その初回使用年齢も19.6歳と低かった。また、1/3～1/4は薬物乱用前から非行グループや薬物乱用者との関係をもっていた。

ICD-10による主診断では、63%が“【F19.2】依存症候群”に該当した。また、“【F19.57】精神病性障害 (>6M)”，“【F19.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”を合わせると1/4を占め、『鎮咳薬症例』においても症状の慢性化、長期化がうかがわれた。

なお、具体的に報告された鎮咳薬は以下のようなものであった。

- ・ “ブロン”（液，錠剤，顆粒）：14例
- ・ “トニン”：5例
- ・ コデイン：2例
- ・ エフェドリン，“カイゲンシロップ”：各1例

(5) 大麻

大麻は近年その乱用の拡大がもっとも懸念される薬物のひとつである。検挙者数、押収量などもこの数年急激に増加している。本調査における『大麻症例』は1987年より報告されるようになったが¹⁰⁾、主たる使用薬物症例数としては少数で推移していた。ところが、今年度は前回の2.6%に引き続き、“主たる使用薬物”としての割合が3.8%と増加した。

また、過去に大麻使用歴のある症例は、ここ数年の調査において回答症例全体の10%前後を占めていたが、今年度は、前回の22.0%からさらに38.1%へと大幅に増加した（表28）。一般社会での

潜在的な、あるいはすでに顕在化しつつあると言わざるを得ない大麻乱用の拡大の影響が、精神医療の現場に及んできたと考えざるを得ない。

『大麻症例』は70%が男性で、平均27.6歳であった。薬物乱用前に30%が非行グループと、40%が薬物乱用者との関係をもち、逮捕・補導歴、矯正施設への入所歴を有する割合は、規制薬物使用症例群の中では低かった点は、前回と同様の傾向である。約40%が覚せい剤の使用歴があり、コカイン使用歴を有する割合も24%と比較的高かった。

一方、『多剤症例（規制薬物）』では60%に、『覚せい剤症例』では43%に大麻使用歴がみられ、これらの割合は前回に比較して増加傾向にあった。

『大麻症例』の乱用開始にあたっては、60%前後の症例が“好奇心”を動機とし、“同性の友人”を契機としていた。最近1年以内の薬物入手は18%が“友人”からで、入手の容易さがうかがわれた。最近1年以内に使用歴のない割合は約40%と高く、女性では3/4がこれに該当した。診断としては、約1/3が“【F19.57】精神病性障害 (>6M)”に該当しており、『大麻症例』においても長期にわたる症状の遷延傾向がうかがわれた。

(6) その他の薬物

報告された症例全体で使用歴があると報告されたその他の薬物としては、主として以下のようなものがみられた。

- ・ コカイン：55例
- ・ MDMA（“エクスタシー”）：41例
- ・ ヘロイン：23例
- ・ “マジック・マッシュルーム”：21例
- ・ メチルフェニデート（“リタリン”）：19例
- ・ LSD：14例
- ・ いわゆる“脱法ドラッグ”：12例

今回の調査においては、コカイン、ヘロイン、MDMAの使用歴を有する症例数の増加が著しい。とくにMDMAは押収量、検挙者数ともに年々倍増しており、乱用拡大がきわめて懸念される乱用物質である。MDMA（あるいはMDA）の錠剤には、その他の成分としてメタンフェタミン、カフェイン、エフェドリン、コカイン、ケタミンなどが混在する錠剤も流通していることが確認されており¹⁴⁾、引き続き注意深く見守ることが必要であるとともに、さまざまな啓蒙、予防教育がさらに必要であ

ろう。

また、「脱法ドラッグ」乱用の問題も少しずつ精神医療の現場に出現しつつある。今年度は、GBL/GHB/1,4BDが3例、ケタミンが2例、5-MEOが1例報告された。GBL/GHB/1,4BDはGABA系の抑制性薬物で、GHB（ガンマヒドロキシ酪酸）は日本においても規制の対象となっており、すでに脱法ドラッグではないが、GBL（ガンマブチロラクトン）、1,4BD（1,4ブタンジオール、俗称は“ガンマスバイラル”など）はまだ規制の対象になっておらず、インターネットなどで入手が可能である。これらは、鎮静効果を有するが、嘔吐、呼吸・循環障害、意識障害などの重篤な副作用がみられることもあり、注意が必要である。また、5-MEO（5-メトキシ-N, N-ジイソプロピルトリプタミン、俗称“ゴメオ”など）は経口、経鼻、経直腸的に摂取され、男性同性愛者などの間で乱用されることがある。サイロシンなどと類似の幻覚作用をもち、中枢神経に対する毒性もかなり強いことが報告されており¹⁵⁾、同様に十分な注意と対策が必要である。

5) 性格特性について

(1) Y-Gによる評価

Y-Gによる性格特性の検討では、これらの症例群では抑うつ、神経症的傾向は目立たず、一般的活動性は高いが、支配性が低い、換言すればリーダーシップをとらず、周囲に無批判に同調しやすい傾向があることが示唆された。

医薬品症例は全体的に、抑うつの、神経症的傾向が強く、自己評価が低い傾向がみられた。『鎮痛剤症例』ではこのほか、短気で攻撃的な傾向がうかがわれた。また、鎮咳薬症例は規制薬物症例と医薬品症例の中間的な特徴を持っている傾向がみられた。

(2) TCI (20項目版) による評価

TCI (Temperament and Character Inventory) はCloningerによる、気質 (Temperament) と性格 (Character) の7次元モデルに基づく評価尺度である。

「気質」は遺伝性で、認知機能や習慣形成の際に前概念的バイアスを伴うものとされる。行動に関する以下の4次元でとらえられる。

- ・ 触発 (新奇希求性: novelty seeking, NS)

- ・ 維持 (報酬依存: reward dependence, RD)
- ・ 抑制 (損害回避: harm avoidance, HA)
- ・ 固着 (固執: persistence, P)

一方、「性格」は自己概念によって洞察、学習することにより成人期に成熟し、自己のあるいは社会の有効性に影響するものとされている。「性格」は、自己を同定する程度によって以下の3次元でとらえられる。

- ・ 自律的個人 (自己志向: self-directedness, SD)
- ・ 人類社会の統合的部分 (協調: cooperativeness, C)
- ・ 全体としての宇宙の統合的部分 (自己超越: self-transcendence, ST)

上記の「気質」のカテゴリーのうち「新奇希求性」はドパミン、「報酬維持」はセロトニン、「損害回避」はノルアドレナリンといった脳内神経伝達物質との関連が報告されており、興味深い。TCI日本語版については、その信頼性および妥当性が報告されており、アルコール症、摂食障害などをはじめとしてこれまでさまざまな精神疾患について評価が行われているが、日本における薬物関連精神疾患の比較的多数例に関する報告はほとんどないため、今回の調査での評価を試みた。TCI原版は240項目から構成されるが、このまま質問項目に組み込むのは困難なため、各カテゴリーに相関の高い項目を選択した20項目版<文献>を自己評価尺度として用いた。

7カテゴリーの平均スコアは、主たる使用薬物で統計的には差がみられなかったが、「新奇希求性 (NS)」では大麻症例が、「損害回避 (HA)」では鎮痛薬症例が、「報酬依存」では大麻・抗不安薬・睡眠薬の各症例群が高いスコアを示しており、これらの結果は比較的理解しやすいと思われる。

性差の検討では、「損害回避 (HA)」と、「自己超越 (ST)」で女性の方が平均スコアが有意に高かった (t検定, $p < .05$)。アルコール症における検討で「損害回避 (HA)」は、飲酒開始と飲酒頻度について抑制的に相関するが、飲酒を始めた場合ではむしろ重症化と相関することが報告されている<文献>。薬物関連精神疾患においても、例

数の上からは男性優位であるが、たとえば依存症候群の性差の検討からは女性においてむしろより重症例が存在することが示唆されたこと（2002年度調査）から考えると、同様の傾向が指摘できる可能性がある。「自己超越（ST）」スコアの性差については判断が難しいが、このカテゴリーに属する質問文の内容が12ステップの内容を想起させる可能性があるため、女性においてNA等のミーティング参加者が多かった可能性も否定できない。

E. 結論

1) 全国の精神科病床を有する医療施設1,658施設を対象に、薬物関連精神疾患の実態調査を郵送法にて施行し、834施設（50.3%）から453症例の報告を得た。

2) 『覚せい剤症例』が233例（51.4%）と最も多く、『有機溶剤症例』77例（17.0%）と合わせると全体の7割近くを占め、依然として両薬物が精神医療の現場においても主要な乱用薬物であることが確認された。

3) 次いで、『睡眠薬症例』44例（9.7%）、『その他症例』20例（4.4%）、『大麻症例』17例（3.8%）、『鎮咳薬症例』16例（3.5%）、『鎮痛薬症例』11例（2.4%）、『抗不安薬症例』7例（1.5%）、であった。多剤使用症例は『多剤症例（医薬品）』16例（3.5%）、『多剤症例（規制薬物）』が12例（2.6%）と全体の約6%を占めていた。

4) 『覚せい剤症例』が全症例に占める割合および「使用歴を有する薬物」としてもこれまで同様最も高い割合を占めており、検挙者数で見ると社会での乱用の状況は落ち着きつつあるようにも見えるが、今後の精神医療の現場における推移を注意深く見守るべきであると考えられた。

5) 『覚せい剤症例』の病態としては、精神病性障害が中心で、とくに長期にわたる遷延性の状態像がうかがわれた。

6) 『有機溶剤症例』の占める割合は17.0%とほぼ横ばいで、「使用歴を有する薬物」としても52.4%と覚せい剤に次いでおり、これまで同様の水準を保っていた。「初回使用薬物」としては45.1%と最も高い割合を示しており、薬物乱用への入門薬としての役割は依然として軽視できないと考えられた。

7) 『有機溶剤症例』では飲酒・喫煙、薬物乱用が低年齢で開始されていた。このような低年齢に

おける有機溶剤乱用の問題は、成長期における健康・保健問題のみならず、深刻な心理・社会的障害を引き起こすことにつながり、依然として重要な問題であると考えられた。

8) 『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』では平均年齢、使用開始年齢など高く、複数の薬物を併用する傾向がみられた。病態としては、依存症候群を呈する割合が高かった。

9) 『鎮咳薬症例』は主たる使用薬物としては3.5%とやや増加傾向にあった。比較的low年齢で乱用を開始しており、性比、交友関係などにおいて規制薬物症例に近い特徴をもっており、Y-Gのプロフィールからも医薬品症例と規制薬物症例の中間的な特徴がうかがわれた。また、依存症候群に該当する割合は60%以上と高かった。

10) 『大麻症例』は3.8%と増加し、「使用歴の有する症例」も全体の22%から38.1%へとさらに大幅に増加した。社会における乱用の影響はすでに精神医療の現場にも顕在化しているといわざるを得ない。『大麻症例』の7割が男性で、4割に覚せい剤使用歴、1/4にコカインの使用歴がみられ多剤併用の傾向が強かった。診断としては、依存症候群、精神病性障害（6M）の割合がそれぞれ約1/3で、症状の遷延する症例も少なからず存在することがうかがわれた。

11) その他、コカイン、ヘロイン、LSD、MDMA（“エクスタシー”），“マジックマッシュルーム”，メチルフェニデート等の報告がみられた。とくにMDMAの使用歴を有する症例は1割近くにみられ、ここでも社会の乱用拡大の影響がみられた。このような乱用薬物の多様化の傾向については引き続き注意を要するとともに、効果的な啓蒙・予防対策が講じられるべきであると考えられた。

12) 今年度の調査においては、回答率は50%を超えたが、症例報告施設数および報告症例数が従来に比較して激減した。これは原則的に文書による同意取得を条件とした点が大きく関連していると思われた。実際、同意を拒否した症例が相当数（少なくとも85施設、161例）存在したことがわかった。今後の調査において、方法論、とくに倫理的問題をどのようにクリアしつつ現場に負担をできるだけかけずに回答率を上げ、信頼性の高い報告を得るかについて、さらに検討を要すると思われた。

謝 辞

日々の臨床でご多忙の中、本実態調査にご協力いただきました全国の精神科医療施設の医師の皆様ならびに関係者の方々、さらにご参加いただいた患者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

F. 研究発表

1) 論文・著書

(1) 尾崎 茂：物質依存の時代変遷と現状。精神科治療学19(11)：1289-1296, 2004。

(2) 尾崎 茂：Methylphenidateの薬理、乱用と依存。「臨床精神薬理」8(6), 2005 (in print)。

2) 学会発表

(1) 尾崎 茂, 和田 清：Severity of Dependence Scale (SDS)の有用性について。第39回日本アルコール・薬物医学会, ポスターシンポジウム1「精神医学」。2004年9月9日, 八王子学園都市センター。

G. 参考文献

1) 病院要覧(2003-2004年版)。医療施設政策研究会(編集), 医学書院。

2) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣, 富山学人：薬物依存の疫学的調査研究—その3(乱用・依存の発生因子をめぐって)。厚生省精神・神経疾患研究委託費報告書：171-181, 1989。

3) 木島伸彦, 齊藤令衣, 竹内美香ほか：Cloningerの気質と性格の7次元モデルおよび日本語版Temperament and Character Inventory (TCI)。季刊精神科診断学7(3)：379-399。

4) Kitamura, T., Kijima, N., Suzuki, N., et al：Correlates of problem drinking among young Japanese women：personality and early experiences. Comprehensive Psychiatry 40：108-114, 1999。

5) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他：薬物乱用・依存の実態と動向に関する研究(その2)—医療施設実態調査より—。厚生省精神・神経疾患研究委託費—薬物依存の発生機序と臨床および治療に関する研究。平成3年度報告書：143-152, 1992。

6) 清水順三郎, 福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究

事業」薬物依存の社会医学的, 精神医学的特徴に関する研究。平成5年度研究成果報告書：79-104, 1994。

7) 清水順三郎：精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的, 精神医学的特徴に関する研究。平成6年度研究成果報告書：87-118, 1995。

8) 尾崎 茂：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成8年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究。第1分冊「薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究」平成8年度研究成果報告書：61-86, 1997。

9) 尾崎 茂, 和田 清, 福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。平成10年度研究報告書：85-116, 1999。

10) 尾崎 茂, 和田 清, 福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成12年度厚生科学研究費補助金「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。平成12年度研究報告書：77-118, 2001。

11) 尾崎 茂, 和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成14年度厚生科学研究補助金「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究および社会的損失に関する研究」研究報告書：87-128, 2003。

12) 尾崎 茂, 和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成15年度厚生労働科学研究補助金「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」研究報告書：89-103, 2004。

13) 和田 清, 菊池安希子, 尾崎 茂：薬物使用に関する全国住民調査。平成15年度厚生科学研究費補助金「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。平成15年度研究報告書：17-81, 2004。

14) Yukiko Makino, Satoshi Tanaka, Shingo Kurobane, et al. Profiling of Illegal Amphetamine-type Stimulant Tablets in Japan. J.Hea

lth Sci., 2003.

15) 船田正彦：MDMA及び脱法ドラッグの神経毒性ならびに精神依存発現メカニズムの解明。平成15年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）研究報告書：1-47, 2004。

表1 精神科医療施設の種別と回答状況

	総施設数	回答のあった施設数と症例数				1施設あたり 回答症 例数
		回答あり 施設数	症例あり		症例なし 施設数	
			施設数	回答症例数		
国立病院・療養所	47 (2.8%)	32 (68.1%)	15 (31.9%)	192 (42.4%)	17 (36.2%)	12.8
自治体立病院						
都道府県立病院	77 (4.6%)	33 (42.9%)	7 (9.1%)	49 (10.8%)	26 (33.8%)	7.0
市町村立病院	74 (4.5%)	40 (54.1%)	2 (2.7%)	2 (0.4%)	38 (51.4%)	1.0
大学医学部附属病院	84 (5.1%)	42 (50.0%)	6 (7.1%)	7 (1.5%)	36 (42.9%)	1.2
民間病院	1376 (83.0%)	690 (50.1%)	45 (3.3%)	203 (44.8%)	645 (46.9%)	4.5
計	1658 (100.0%)	837 (50.5%)	75 (4.5%)	453 (100.0%)	762 (46.0%)	6.0

表2 主たる使用薬物別にみた症例数(%)

薬物分類	男性	女性	合計	全症例における割合
覚せい剤	161 (53.0%)	72 (48.3%)	233 (51.4%)	51.4%
有機溶剤	61 (20.1%)	16 (10.7%)	77 (17.0%)	17.0%
睡眠薬	25 (8.2%)	19 (12.8%)	44 (9.7%)	9.7%
抗不安薬	5 (1.6%)	2 (1.3%)	7 (1.5%)	1.5%
鎮痛薬	3 (1.0%)	8 (5.4%)	11 (2.4%)	2.4%
鎮咳薬	12 (3.9%)	4 (2.7%)	16 (3.5%)	3.5%
大麻	12 (3.9%)	5 (3.4%)	17 (3.8%)	3.8%
その他	13 (4.3%)	7 (4.7%)	20 (4.4%)	4.4%
多剤(医薬品)	3 (1.0%)	13 (8.7%)	16 (3.5%)	3.5%
多剤(規制薬物)	9 (3.0%)	3 (2.0%)	12 (2.6%)	2.6%
計	304 (100.0%)	149 (100.0%)	453 (100.0%)	100.0%

表3-1 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

	覚せい剤 (233例)		有機溶剤 (77例)		睡眠薬 (44例)		抗不安薬 (7例)		鎮痛薬 (11例)		鎮咳薬 (16例)	
	男性 (69.1%)	女性 (30.9%)	男性 (79.2%)	女性 (20.8%)	男性 (56.8%)	女性 (43.2%)	男性 (71.4%)	女性 (28.6%)	男性 (27.3%)	女性 (72.7%)	男性 (75.0%)	女性 (25.0%)
性別												
年齢構成												
≤14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
15~19	1 (0.6%)	1 (1.4%)	2 (3.3%)	6 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20~24	10 (8.2%)	13 (18.1%)	5 (8.2%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	1 (25.0%)
25~29	13 (8.1%)	11 (15.3%)	7 (11.5%)	1 (6.3%)	3 (12.0%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	1 (25.0%)
30~34	43 (26.7%)	21 (29.2%)	26 (42.6%)	2 (12.5%)	6 (24.0%)	2 (10.5%)	2 (40.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	4 (33.3%)	1 (25.0%)
35~39	23 (14.3%)	10 (13.9%)	10 (16.4%)	3 (18.8%)	4 (16.0%)	3 (15.8%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	1 (12.5%)	3 (25.0%)	1 (25.0%)
40~44	30 (18.6%)	8 (11.1%)	5 (8.2%)	0 (0.0%)	4 (16.0%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)
45~49	14 (8.7%)	0 (0.0%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	3 (15.8%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)
50~54	14 (8.7%)	3 (4.2%)	4 (6.6%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
55~59	7 (4.3%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
60~64	3 (1.9%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65≤	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	1 (0.6%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	161 (100.0%)	72 (100.0%)	61 (100.0%)	16 (100.0%)	25 (100.0%)	19 (100.0%)	5 (100.0%)	2 (100.0%)	3 (100.0%)	8 (100.0%)	12 (100.0%)	4 (100.0%)
平均(男女別)	38.6±10.3	33.5±9.9	33.4±7.9	24.4±7.2	41.5±11.6	44.8±11.8	37.0±4.8	33.0±0.0	34.0±6.4	43.9±12.1	34.1±6.4	30.3±4.4
平均(全体)	37.0±10.5		31.5±8.6		43.0±11.7		35.9±4.4		41.2±11.7		33.1±6.2	

表3-2 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

性別 性比	大麻 (17例)		その他 (20例)		多剤 (医薬品) (16例)		多剤 (規制薬物) (12例)	
	男性 (70.6%)	女性 (29.4%)	男性 (65.0%)	女性 (35.0%)	男性 (18.8%)	女性 (81.3%)	男性 (75.0%)	女性 (25.0%)
年齢構成								
≤14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)
15~19	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20~24	4 (33.3%)	2 (40.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
25~29	2 (16.7%)	3 (60.0%)	3 (23.1%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
30~34	2 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	5 (38.5%)	2 (22.2%)	1 (33.3%)
35~39	2 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	2 (28.6%)	2 (66.7%)	1 (7.7%)	3 (33.3%)	1 (33.3%)
40~44	1 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
45~49	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)
50~54	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (7.7%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)
55~59	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
60~64	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65≤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	12 (100.0%)	5 (100.0%)	13 (100.0%)	7 (100.0%)	3 (100.0%)	13 (100.0%)	9 (100.0%)	3 (100.0%)
平均(男女別)	28.3±7.0	26.0±3.0	34.3±9.5	37.4±14.2	41.7±6.6	31.4±8.3	37.8±10.5	29.3±5.7
平均(全体)	27.6±6.2		35.4±11.5		33.3±9.0		35.7±10.2	

表4 主たる使用薬物別にみた最終学歴

	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻	その他	多剤 (医薬品)	多剤 (規制薬物)	計
小学校											
在学中											
中退											
卒業	2 (0.9%)				1 (9.1%)						3 (0.7%)
不明											
中学校											
在学中											
中退	1 (0.4%)									1 (8.3%)	1 (0.2%)
卒業	71 (30.5%)	31 (40.3%)	10 (22.7%)	1 (14.3%)		2 (12.5%)	1 (5.9%)		3 (18.8%)	3 (25.0%)	122 (26.9%)
不明	3 (1.3%)	3 (3.9%)	1 (2.3%)								7 (1.5%)
高校											
在学中	2 (0.9%)	1 (1.3%)					1 (5.9%)				4 (0.9%)
中退	56 (24.0%)	19 (24.7%)	3 (6.8%)		2 (18.2%)	1 (6.3%)	2 (11.8%)	2 (10.0%)		6 (50.0%)	91 (20.1%)
卒業	52 (22.3%)	10 (13.0%)	13 (29.5%)	1 (14.3%)	5 (45.5%)	4 (25.0%)	3 (17.6%)	6 (30.0%)	6 (37.5%)		100 (22.1%)
不明	3 (1.3%)	1 (1.3%)	1 (2.3%)								5 (1.1%)
専門学校											
在学中	1 (0.4%)										1 (0.2%)
中退	8 (3.4%)	2 (2.6%)			1 (9.1%)		1 (5.9%)		1 (6.3%)		13 (2.9%)
卒業	13 (5.6%)	7 (9.1%)	4 (9.1%)	1 (14.3%)	1 (9.1%)	4 (25.0%)	1 (5.9%)	1 (5.0%)	1 (6.3%)		33 (7.3%)
不明			1 (2.3%)						1 (6.3%)		2 (0.4%)
短大											
在学中			1 (2.3%)				1 (5.9%)		1 (6.3%)	1 (8.3%)	4 (0.9%)
中退											
卒業	1 (0.4%)	1 (1.3%)					2 (11.8%)	1 (5.0%)	1 (6.3%)		6 (1.3%)
不明											
大学											
在学中		1 (1.3%)									1 (0.2%)
中退	9 (3.9%)		2 (4.5%)			2 (12.5%)	2 (11.8%)	2 (10.0%)			17 (3.8%)
卒業	7 (3.0%)		7 (15.9%)	4 (57.1%)	1 (9.1%)	2 (12.5%)	2 (11.8%)	5 (25.0%)	2 (12.5%)	1 (8.3%)	31 (6.8%)
不明											
不明	4 (1.7%)	1 (1.3%)	1 (2.3%)			1 (6.3%)	1 (5.9%)	3 (15.0%)			11 (2.4%)
計	233 (100.0%)	77 (100.0%)	44 (100.0%)	7 (100.0%)	11 (100.0%)	16 (100.0%)	17 (100.0%)	20 (100.0%)	16 (100.0%)	12 (100.0%)	453 (100.0%)

表5-1 主たる使用薬物別にみた職業歴(薬物乱用前および現在)

	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業	3 (1.3)	6 (2.6)					1 (14.3)	1 (14.3)	1 (9.1)			
2 商人(卸・小売り)		1 (0.4)										
3 不動産業	1 (0.4)	1 (0.4)		1 (1.3)								
4 金融業		1 (0.4)		1 (1.3)	1 (2.3)							
5 自営職人	1 (0.4)	3 (1.3)		1 (1.3)								
6 露天・行商	1 (0.4)											
7 その他自営業	5 (2.1)	4 (1.7)			2 (4.5)	1 (2.3)	1 (14.3)					
8 団体役員		1 (0.4)		1 (1.3)								
9 会社員	11 (4.7)	5 (2.1)	2 (1.0)	1 (1.3)	4 (9.1)	1 (2.3)	1 (14.3)		2 (18.2)		1 (6.3)	
10 店員	9 (3.9)		7 (3.6)	3 (3.9)	3 (6.8)	2 (4.5)						
11 工員	17 (7.3)	4 (1.7)	3 (1.6)	1 (1.3)	1 (2.3)	1 (2.3)	1 (14.3)				1 (6.3)	
12 公務員	2 (0.9)				4 (9.1)	1 (2.3)	1 (14.3)	1 (14.3)				
13 風俗営業関係	10 (4.3)	2 (0.9)	1 (0.5)		1 (2.3)					1 (9.1)	2 (12.5)	2 (12.5)
14 飲食業	13 (5.6)	5 (2.1)		2 (2.6)	3 (6.8)	2 (4.5)			1 (9.1)			
15 興業関係	4 (1.7)	2 (0.9)										
16 旅館業	2 (0.9)	1 (0.4)			1 (2.3)							
17 交通運輸	10 (4.3)	5 (2.1)	2 (1.0)							1 (9.1)		
18 土木建築業	16 (6.9)	5 (2.1)	7 (3.6)	1 (1.3)							1 (6.3)	
19 日雇い労働者	4 (1.7)	6 (2.6)	2 (1.0)									
20 その他の被雇用者	7 (3.0)	7 (3.0)	4 (2.1)	1 (1.3)	4 (9.1)			1 (14.3)				1 (6.3)
21 医療業関係	1 (0.4)	1 (0.4)			4 (9.1)	2 (4.5)						
22 芸能関係	1 (0.4)				1 (2.3)				1 (9.1)			
24 小学生	2 (0.9)		1 (0.5)									
25 中学生	39 (16.7)		27 (14.1)									1 (6.3)
26 高校生	10 (4.3)	2 (0.9)	8 (4.2)	1 (1.3)	1 (2.3)			1 (9.1)			2 (12.5)	
27 大学生	4 (1.7)		1 (0.5)		1 (2.3)						1 (6.3)	
28 各種学校生	3 (1.3)											
29 主婦	3 (1.3)	8 (3.4)	1 (0.5)		2 (4.5)	2 (4.5)	1 (14.3)		1 (9.1)	1 (9.1)		1 (6.3)
30 家事手伝い	1 (0.4)	1 (0.4)				1 (2.3)				1 (9.1)		
31 無職	14 (6.0)	125 (53.6)	4 (2.1)	52 (67.5)	2 (4.5)	21 (47.7)		3 (42.9)	1 (9.1)	5 (45.5)	2 (12.5)	10 (62.5)
32 不定	6 (2.6)	3 (1.3)	1 (0.5)	2 (2.6)	1 (2.3)						1 (6.3)	
33 不明	28 (12.0)	32 (13.7)	6 (3.1)	8 (10.4)	8 (18.2)	10 (22.7)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (18.2)	2 (18.2)	2 (12.5)	4 (25.0)
34 その他	5 (2.1)	2 (0.9)		1 (1.3)					1 (9.1)			
計	233 (100.0)	233 (100.0)	77 (40.1)	77 (100.0)	44 (100.0)	44 (100.0)	7 (100.0)	7 (100.0)	11 (100.0)	11 (100.0)	16 (100.0)	16 (100.0)

表5-2 主たる使用薬物別にみた職業歴(薬物乱用前および現在)

	大麻		その他		多剤(医薬品)		多剤(規制薬物)	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業								
2 商人(卸・小売り)								
3 不動産業								
4 金融業							1 (8.3)	
5 自営職人								
6 露天・行商								
7 その他自営業		1 (5.9)			1 (6.3)			
8 団体役員								
9 会社員	1 (5.9)	1 (5.9)	4 (20.0)	3 (15.0)			1 (8.3)	
10 店員								
11 工員			1 (5.0)				1 (8.3)	
12 公務員			1 (5.0)	1 (5.0)	1 (6.3)	1 (6.3)		
13 風俗営業関係	3 (17.6)	1 (5.9)		1 (5.0)				
14 飲食業				1 (5.0)		1 (6.3)	1 (8.3)	
15 興業関係								
16 旅館業								
17 交通運輸					1 (6.3)			
18 土木建築業			1 (5.0)		1 (6.3)			
19 日雇い労働者	1 (5.9)	1 (5.9)						
20 その他の被雇用者	1 (5.9)				1 (6.3)	1 (6.3)		
21 医療業関係	1 (5.9)	1 (5.9)	2 (10.0)	1 (5.0)			1 (6.3)	
22 芸能関係			(0.0)					
24 小学生			1 (5.0)					
25 中学生	1 (5.9)						3 (25.0)	1 (8.3)
26 高校生	4 (23.5)	1 (5.9)	2 (10.0)		1 (6.3)		3 (25.0)	
27 大学生	1 (5.9)		1 (5.0)					
28 各種学校生					1 (6.3)			
29 主婦			1 (5.0)	1 (5.0)	1 (6.3)	2 (12.5)		
30 家事手伝い								
31 無職		8 (47.1)	1 (5.0)	8 (40.0)	2 (12.5)	4 (25.0)	1 (8.3)	6 (50.0)
32 不定								
33 不明	3 (17.6)	3 (17.6)	4 (20.0)	5 (25.0)	6 (37.5)	6 (37.5)	1 (8.3)	5 (41.7)
34 その他	1 (5.9)							
計	17 (100.0)	17 (100.0)	20 (100.0)	20 (100.0)	16 (100.0)	16 (100.0)	12 (100.0)	12 (100.0)

表6 暴力団との関係(複数回答)

	乱用開始前に あり	乱用開始後に あり	これまでなし	不明	計
(主たる使用薬物)					
覚せい剤 (男)	71 (44.1%)	66 (41.0%)	38 (23.6%)	25 (15.5%)	161 (100.0%)
(女)	23 (31.9%)	27 (37.5%)	19 (26.4%)	12 (16.7%)	72 (100.0%)
有機溶剤 (男)	7 (11.5%)	23 (37.7%)	33 (54.1%)	1 (1.6%)	61 (100.0%)
(女)	2 (12.5%)	4 (25.0%)	9 (56.3%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
睡眠薬 (男)	1 (4.0%)		19 (76.0%)	5 (20.0%)	25 (100.0%)
(女)	4 (21.1%)	2 (10.5%)	12 (63.2%)	3 (15.8%)	19 (100.0%)
抗不安薬 (男)			5 (100.0%)		5 (100.0%)
(女)	1 (50.0%)		1 (50.0%)		2 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			3 (100.0%)		3 (100.0%)
(女)	2 (25.0%)		5 (62.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
鎮咳薬 (男)		2 (16.7%)	8 (66.7%)	2 (16.7%)	12 (100.0%)
(女)			3 (75.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
大麻 (男)			11 (91.7%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
(女)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
その他 (男)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	9 (69.2%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)
(女)	2 (28.6%)		2 (28.6%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)
多剤 (男)			3 (100.0%)		3 (100.0%)
(医薬品) (女)	1 (7.7%)	0	8 (61.5%)	4 (30.8%)	13 (100.0%)
多剤 (男)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)
(規制薬物) (女)		2 (66.7%)	1 (33.3%)		3 (100.0%)
計 (男)	85 (28.0%)	94 (30.9%)	131 (43.1%)	38 (12.5%)	304 (100.0%)
(女)	37 (24.8%)	36 (24.2%)	62 (41.6%)	27 (18.1%)	149 (100.0%)
男女計	122 (26.9%)	130 (28.7%)	193 (42.6%)	65 (14.3%)	453 (100.0%)

表7 非行グループとの関係(複数回答)

	乱用開始前に あり	乱用開始後に あり	これまでなし	不明	計
(主たる使用薬物)					
覚せい剤 (男)	78 (48.4%)	42 (26.1%)	45 (28.0%)	27 (16.8%)	161 (100.0%)
(女)	28 (38.9%)	14 (19.4%)	25 (34.7%)	15 (20.8%)	72 (100.0%)
有機溶剤 (男)	30 (49.2%)	26 (42.6%)	15 (24.6%)	5 (8.2%)	61 (100.0%)
(女)	8 (50.0%)	4 (25.0%)	6 (37.5%)		16 (100.0%)
睡眠薬 (男)	3 (12.0%)		16 (64.0%)	6 (24.0%)	25 (100.0%)
(女)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	13 (68.4%)	5 (26.3%)	19 (100.0%)
抗不安薬 (男)	1 (20.0%)		4 (80.0%)		5 (100.0%)
(女)	1 (50.0%)		1 (50.0%)		2 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
(女)	1 (12.5%)		6 (75.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	4 (33.3%)	2 (16.7%)	6 (50.0%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
(女)	1 (25.0%)		2 (50.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
大麻 (男)	3 (25.0%)		8 (66.7%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
(女)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
その他 (男)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	9 (69.2%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)
(女)	1 (14.3%)		3 (42.9%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)
多剤 (男)	1 (33.3%)		2 (66.7%)		3 (100.0%)
(医薬品) (女)	2 (15.4%)		8 (61.5%)	3 (23.1%)	13 (100.0%)
多剤 (男)	5 (55.6%)	1 (11.1%)		4 (44.4%)	9 (100.0%)
(規制薬物) (女)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)		3 (100.0%)
計 (男)	128 (42.1%)	73 (24.0%)	107 (35.2%)	46 (15.1%)	304 (100.0%)
(女)	46 (30.9%)	21 (14.1%)	67 (45.0%)	29 (19.5%)	149 (100.0%)
男女計	174 (38.4%)	94 (20.8%)	174 (38.4%)	75 (16.6%)	453 (100.0%)

表8 薬物乱用者との関係(複数回答)

	乱用開始前に あり	乱用開始後に あり	これまでなし	不明	計
覚せい剤 (男)	98 (60.9%)	96 (59.6%)	14 (8.7%)	17 (10.6%)	161 (100.0%)
(女)	36 (50.0%)	35 (48.6%)	3 (4.2%)	13 (18.1%)	72 (100.0%)
有機溶剤 (男)	35 (57.4%)	32 (52.5%)	9 (14.8%)	6 (9.8%)	61 (100.0%)
(女)	11 (68.8%)	7 (43.8%)	3 (18.8%)	16 (100.0%)	16 (100.0%)
睡眠薬 (男)	4 (16.0%)	2 (8.0%)	12 (48.0%)	7 (28.0%)	25 (100.0%)
(女)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	11 (57.9%)	3 (15.8%)	19 (100.0%)
抗不安薬 (男)		1 (20.0%)	4 (80.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)
(女)		1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			3 (100.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)
(女)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	4 (33.3%)	4 (33.3%)	3 (25.0%)	3 (25.0%)	12 (100.0%)
(女)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
大麻 (男)	5 (33.3%)	7 (46.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	15 (100.0%)
(女)	2 (40.0%)	2 (40.0%)		1 (20.0%)	5 (100.0%)
その他 (男)	3 (23.1%)	4 (30.8%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)
(女)	1 (14.3%)		3 (42.9%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)
多剤 (医薬品) (男)	1 (33.3%)		2 (66.7%)		3 (100.0%)
(女)	1 (7.7%)		8 (61.5%)	4 (30.8%)	13 (100.0%)
多剤 (規制薬物) (男)	5 (55.6%)	1 (11.1%)		4 (44.4%)	9 (100.0%)
(女)	1 (33.3%)	3 (100.0%)			3 (100.0%)
計 (男)	155 (50.5%)	147 (47.9%)	56 (18.2%)	44 (14.3%)	307 (100.0%)
(女)	58 (38.7%)	53 (35.3%)	34 (22.7%)	44 (29.3%)	150 (100.0%)
男女計	213 (46.6%)	200 (43.8%)	90 (19.7%)	88 (19.3%)	457 (100.0%)

表9 矯正施設への入所歴の有無

主たる使用薬物 (性)	あり	なし	不明	計
覚せい剤 (男)	82 (50.9%)	75 (46.6%)	4 (2.5%)	161 (100.0%)
(女)	21 (29.2%)	44 (61.1%)	7 (9.7%)	72 (100.0%)
有機溶剤 (男)	28 (45.9%)	31 (50.8%)	2 (3.3%)	61 (100.0%)
(女)	5 (31.3%)	10 (62.5%)	1 (6.3%)	16 (100.0%)
睡眠薬 (男)	2 (8.0%)	17 (68.0%)	6 (24.0%)	25 (100.0%)
(女)	2 (10.5%)	16 (84.2%)	1 (5.3%)	19 (100.0%)
抗不安薬 (男)		5 (100.0%)		5 (100.0%)
(女)		2 (100.0%)		2 (100.0%)
鎮痛薬 (男)		2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
(女)	1 (12.5%)	7 (87.5%)		8 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	2 (16.7%)	8 (66.7%)	2 (16.7%)	12 (100.0%)
(女)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
大麻 (男)	3 (25.0%)	8 (66.7%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
(女)	2 (40.0%)	3 (60.0%)		5 (100.0%)
その他 (男)	4 (30.8%)	9 (69.2%)		13 (100.0%)
(女)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)
多剤 (医薬品) (男)		3 (100.0%)		3 (100.0%)
(女)	2 (15.4%)	6 (46.2%)	5 (38.5%)	13 (100.0%)
多剤 (規制薬物) (男)	6 (66.7%)	3 (33.3%)		9 (100.0%)
(女)		3 (100.0%)		3 (100.0%)
計 (男)	127 (41.8%)	161 (53.0%)	16 (5.3%)	304 (100.0%)
(女)	35 (23.5%)	96 (64.4%)	18 (12.1%)	149 (100.0%)
男女計	162 (35.8%)	257 (56.7%)	34 (7.5%)	453 (100.0%)

表10 補導・逮捕歴の有無

	薬物乱用前にあり		薬物乱用後にあり		これまでなし	不明	計
	男	女	男	女			
覚せい剤	(男)	33 (20.5%)	104 (64.6%)	28 (17.4%)	10 (6.2%)	161 (100.0%)	
	(女)	12 (16.7%)	35 (48.6%)	18 (25.0%)	10 (13.9%)	72 (100.0%)	
有機溶剤	(男)	8 (13.1%)	44 (72.1%)	10 (16.4%)	4 (6.6%)	61 (100.0%)	
	(女)	3 (18.8%)	7 (43.8%)	6 (37.5%)		16 (100.0%)	
睡眠薬	(男)	1 (4.0%)	5 (20.0%)	12 (48.0%)	7 (28.0%)	25 (100.0%)	
	(女)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	13 (68.4%)	3 (15.8%)	19 (100.0%)	
抗不安薬	(男)	(0.0%)	1 (20.0%)	4 (80.0%)		5 (100.0%)	
	(女)	(0.0%)	(0.0%)	2 (100.0%)		2 (100.0%)	
鎮痛薬	(男)	(0.0%)	(0.0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)	
	(女)	(0.0%)	2 (25.0%)	6 (75.0%)		8 (100.0%)	
鎮咳薬	(男)	3 (25.0%)	5 (41.7%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)	
	(女)	(0.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)		4 (100.0%)	
大麻	(男)	(0.0%)	4 (33.3%)	7 (58.3%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)	
	(女)	1 (20.0%)	(0.0%)	4 (80.0%)		5 (100.0%)	
その他	(男)	2 (15.4%)	3 (23.1%)	9 (69.2%)		13 (100.0%)	
	(女)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)	
多剤 (医薬品)	(男)	(0.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)		3 (100.0%)	
	(女)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	7 (53.8%)	2 (15.4%)	13 (100.0%)	
多剤 (規制薬物)	(男)	3 (33.3%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	6 (66.7%)	9 (100.0%)	
	(女)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)		3 (100.0%)	
計	(男)	50 (16.4%)	171 (56.3%)	81 (26.6%)	30 (9.9%)	304 (100.0%)	
	(女)	20 (13.4%)	55 (36.9%)	60 (40.3%)	18 (12.1%)	149 (100.0%)	
男女計		70 (15.5%)	226 (49.9%)	141 (31.1%)	48 (10.6%)	453 (100.0%)	

表11 配偶関係

	未婚	同棲	内縁	既婚	別居	離婚	死別	再婚	その他	不明	計	
	覚せい剤	(男) 90 (55.9%)	2 (1.2%)	1 (0.6%)	16 (9.9%)	1 (0.6%)	43 (26.7%)	0	2 (1.2%)	0	6 (3.7%)	161
	(女) 30 (41.7%)	4 (5.6%)	3 (4.2%)	12 (16.7%)	0	14 (19.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	0	7 (9.7%)	72	
有機溶剤	(男) 43 (70.5%)	0	1 (1.6%)	3 (4.9%)	1 (1.6%)	10 (16.4%)	0	0	0	3 (4.9%)	61	
	(女) 14 (87.5%)	0	1 (6.3%)	0	0	1 (6.3%)	0	0	0	0	16	
睡眠薬	(男) 9 (36.0%)	1 (4.0%)	0	5 (20.0%)	2 (8.0%)	3 (12.0%)	0	0	0	5 #####	25	
	(女) 6 (31.6%)	0	2 #####	4 (21.1%)	0	5 (26.3%)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	0	0	19	
抗不安薬	(男) 3 (60.0%)	0	0	1 (20.0%)	0	1 (20.0%)	0	0	0	0	5	
	(女) 1 (50.0%)	0	0	0	0	1 (50.0%)	0	0	0	0	2	
鎮痛薬	(男) 2 (66.7%)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 #####	3	
	(女) 1 (12.5%)	0	0	3 (37.5%)	0	4 (50.0%)	0	0	0	0	8	
鎮咳薬	(男) 9 (75.0%)	0	0	2 (16.7%)	0	0	0	0	0	1 (8.3%)	12	
	(女) 1 (25.0%)	1 #####	0	1 (25.0%)	0	0	0	0	0	1 #####	4	
大麻	(男) 8 (66.7%)	0	0	0	0	2 (16.7%)	0	0	0	2 #####	12	
	(女) 3 (60.0%)	0	0	0	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0	0	0	0	5	
その他	(男) 8 (61.5%)	0	0	3 (23.1%)	0	2 (15.4%)	0	0	0	0	13	
	(女) 3 (42.9%)	0	0	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0	0	0	0	2 #####	7	
多剤 (医薬品)	(男) 2 (66.7%)	0	0	0	0	1 (33.3%)	0	0	0	0	3	
	(女) 5 (38.5%)	0	0	2 (15.4%)	0	2 (15.4%)	0	0	0	4 #####	13	
多剤 (規制薬物)	(男) 5 (55.6%)	0	1 #####	0	0	1 (11.1%)	0	0	0	2 #####	9	
	(女) 2 (66.7%)	0	0	0	0	1 (33.3%)	0	0	0	0	3	
計	(男) 179 (58.9%)	3 (1.0%)	3 (1.0%)	30 (9.9%)	4 (1.3%)	63 (20.7%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	20 (6.6%)	304	
	(女) 66 (44.3%)	5 (3.4%)	6 (4.0%)	23 (15.4%)	2 (1.3%)	29 (19.5%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	14 (9.4%)	149	
男女計		245 (54.1%)	8 (1.8%)	9 (2.0%)	53 (11.7%)	6 (1.3%)	92 (20.3%)	2 (0.4%)	4 (0.9%)	0 (0.0%)	34 (7.5%)	453

表12-1 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	覚せい剤 (覚せい剤)		有機溶剤 (有機溶剤)		睡眠薬 (睡眠薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢(歳)						
<10			2 (3.3%)			
10~14	1 (0.6%)	3 (4.2%)	21 (34.4%)	7 (43.8%)		
15~19	59 (36.6%)	25 (34.7%)	34 (55.7%)	7 (43.8%)	1 (4.0%)	2 (10.5%)
20~24	64 (39.8%)	24 (33.3%)	2 (3.3%)	1 (6.3%)	3 (12.0%)	2 (10.5%)
25~29	13 (8.1%)	9 (12.5%)		1 (6.3%)	7 (28.0%)	4 (21.1%)
30~34	12 (7.5%)	5 (6.9%)			5 (20.0%)	2 (10.5%)
35~39	2 (1.2%)		1 (1.6%)		2 (8.0%)	
40~44	2 (1.2%)					2 (10.5%)
45~49		1 (1.4%)				
50~54					1 (4.0%)	1 (5.3%)
55~59					1 (4.0%)	1 (5.3%)
60~64		1 (1.4%)				1 (5.3%)
65~					1 (4.0%)	(0.0%)
不明	8 (5.0%)	4 (5.6%)	1 (1.6%)		4 (16.0%)	4 (21.1%)
計	161 (100.0%)	72 (100.0%)	61 (100.0%)	16 (100.0%)	25 (100.0%)	19 (100.0%)
平均年齢(男女別)	21.5±5.1	21.7±7.6	15.7±3.5	16.0±3.3	32.1±11.4	32.9±13.8
平均年齢(全体)	21.6±5.9		15.7±3.5		32.4±12.3	

表12-2 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	抗不安薬 (抗不安薬)		鎮痛薬 (鎮痛薬)		鎮咳薬 (鎮咳薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢(歳)						
10~14						
15~19				3 (37.5%)	3 (25.0%)	3 (75.0%)
20~24				1 (12.5%)	4 (33.3%)	
25~29	3 (60.0%)	2 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (12.5%)	1 (8.3%)	
30~34			1 (33.3%)			
35~39				1 (12.5%)		
40~44				1 (12.5%)		
45~49						
50~54						
55~59						
60~64						
65~				1 (12.5%)		
不明	2 (40.0%)		1 (33.3%)		4 (33.3%)	1 (25.0%)
計	5 (100.0%)	2 (100.0%)	3 (100.0%)	8 (100.0%)	12 (100.0%)	4 (100.0%)
平均年齢(男女別)	27.3±0.6	25.0	30.0±4.2	30.3±17.2	20.1±3.6	18.0±1.0
平均年齢(全体)	26.4±1.3		30.2±15.2		19.6±3.2	

表13 主たる薬物別にみた薬物使用期間

使用期間(年)	主たる使用薬物							
	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻	その他
平均	10.9±8.5	12.1±7.9	9.1±9.7	8.0±1.0	12.0±7.1	12.9±6.3	6.8±6.0	4.3±3.4
<1	9 (3.9%)	3 (3.9%)	5 (11.4%)	0	0	0	2 (11.8%)	2 (10.0%)
1~2	12 (5.2%)	4 (5.2%)	2 (4.5%)	0	0	0	1 (5.9%)	0
2~3	12 (5.2%)	4 (5.2%)	1 (2.3%)	0	0	0	0	4 (20.0%)
3~4	14 (6.0%)	3 (3.9%)	0 (0.0%)	0	0	1 (6.3%)	2 (11.8%)	1 (5.0%)
4~5	11 (4.7%)	4 (5.2%)	1 (2.3%)	0	0	0	2 (11.8%)	1 (5.0%)
5~10	47 (20.2%)	8 (10.4%)	12 (27.3%)	3 (42.9%)	4 (36.4%)	1 (6.3%)	3 (17.6%)	4 (20.0%)
10~15	40 (17.2%)	20 (26.0%)	5 (11.4%)	0	2 (18.2%)	3 (18.8%)	2 (11.8%)	2 (10.0%)
15~20	25 (10.7%)	14 (18.2%)	2 (4.5%)	0	0	2 (12.5%)	2 (11.8%)	0
20~25	25 (10.7%)	8 (10.4%)	1 (2.3%)	0	1 (9.1%)	2 (12.5%)	0	0
25~30	5 (2.1%)	5 (6.5%)	0	0	1 (9.1%)	0	0	0
30~35	7 (3.0%)	1 (1.3%)	0	0	0	0	0	0
35≤	1 (0.4%)	0	2 (4.5%)	0	0	0	0	0
不明	25 (10.7%)	3 (3.9%)	13 (29.5%)	4 (57.1%)	3 (27.3%)	7 (43.8%)	3 (17.6%)	6 (30.0%)
計	233 (100.0%)	77 (100.0%)	44 (100.0%)	7 (100.0%)	11 (100.0%)	16 (100.0%)	17 (100.0%)	20 (100.0%)

表14-1 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物			
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤(規制薬物)
なし	34 (14.6%)	27 (35.1%)	2 (11.8%)	0
覚せい剤	233 (100.0%) 21.6±5.9	26 (33.8%) 19.8±4.9	7 (41.2%) 20.7±4.0	12 (100.0%) 20.8±6.1
有機溶剤	130 (55.8%) 15.3±2.4	77 (100.0%) 15.7±3.5	1 (5.9%) 14.0	9 (75.0%) 16.0±2.7
睡眠薬	39 (16.7%) 25.3±7.6	6 (7.8%) 19.8±6.9	2 (11.8%) 19.0±1.4	4 (33.3%) 21.3±6.1
抗不安薬	20 (8.6%) 26.9±7.7	6 (7.8%) 20.6±7.2	1 (5.9%) 20.0	5 (41.7%) 28.0±8.0
鎮痛薬	13 (5.6%) 20.4±4.5	3 (3.9%) 16.5±0.7	0 (0.0%)	2 (16.7%) 20.0
鎮咳薬	9 (3.9%) 21.5±7.4	1 (1.3%) 14.0	0 (0.0%)	4 (33.3%) 17.3±4.0
大麻	100 (42.9%) 21.8±6.5	24 (31.2%) 20.3±4.4	17 (100.0%) 18.3±3.0	7 (58.3%) 20.8±9.0
コカイン	34 (14.6%) 23.2±7.0	4 (5.2%) 22.0±7.4	4 (23.5%) 20.7±0.6	3 (25.0%) 18.0±3.5
ヘロイン	14 (6.0%) 23.5±4.4	2 (2.6%) 16.5±2.1	1 (5.9%) -	3 (25.0%) 20.7±4.5
その他	15 (6.4%) 23.2±7.9	3 (3.9%) 17.5±0.7	5 (29.4%) 26.8±7.6	4 (33.3%) 21.7±5.9

(複数回答)

表14-2 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	その他	多剤(医薬品)
なし	9 (20.5%)	1 (14.3%)	1 (9.1%)	3 (18.8%)	4 (20.0%)	0
覚せい剤	7 (15.9%) 22.3±4.9	0 (0.0%)	3 (27.3%) 21.0±4.6	9 (56.3%) 19.6±2.2	7 (35.0%) 21.6±4.9	5 (31.3%) 22.0±3.7
有機溶剤	7 (15.9%) 15.3±1.2	0 (0.0%)	3 (27.3%) 15.3±1.5	4 (25.0%) 16.3±3.9	5 (25.0%) 16.4±3.4	2 (12.5%) 12.5±0.7
睡眠薬	44 (100.0%) 32.4±12.3	4 (57.1%) 26.3±1.2	3 (27.3%) 26.7±12.9	5 (31.3%) 21.6±2.1	6 (30.0%) 23.6±5.0	14 (87.5%) 26.8±6.2
抗不安薬	16 (36.4%) 33.8±11.6	7 (100.0%) 26.4±1.3	2 (18.2%) 38.5±3.5	4 (25.0%) 21.5±2.1	4 (20.0%) 33.3±15.3	14 (87.5%) 25.9±6.9
鎮痛薬	5 (11.4%) 22.3±5.0	2 (28.6%) 25.0	11 (100.0%) 30.2±15.2	1 (6.3%) 28.0	2 (10.0%) 23.0	4 (25.0%) 23.3±6.0
鎮咳薬	7 (15.9%) 25.6±8.5	0 (0.0%)	2 (18.2%) 17.0	16 (100.0%) 19.6±3.2	3 (15.0%) 18.5±6.4	2 (12.5%) 30.5±0.7
大麻	6 (13.6%) 20.6±4.2	1 (14.3%) -	1 (9.1%) 22.0	6 (37.5%) 20.7±1.8	6 (30.0%) 19.7±3.3	4 (25.0%) 16.8±3.8
コカイン	2 (4.5%) 21.5±5.0	0 (0.0%)	1 (9.1%) 18.0	2 (12.5%) 20.0	3 (15.0%) 18.7±2.5	2 (12.5%) 25.0±5.7
ヘロイン	1 (2.3%) 18.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%) 25.0±5.7
その他	6 (13.6%) 25.5±7.1	3 (42.9%) 31.5±5.0	0 (0.0%)	3 (18.8%) 26.5±9.2	20 (100.0%) 32.4±12.3	10 (62.5%) 18.7±4.8

(複数回答)

表15-1 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物			
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤(規制薬物)
覚せい剤	79 (54.9%)	4 (6.0%)	2 (14.3%)	20 (37.0%)
有機溶剤	6 (4.2%)	39 (58.2%)	1 (7.1%)	13 (24.1%)
睡眠薬	22 (15.3%)	2 (3.0%)	1 (7.1%)	9 (16.7%)
抗不安薬	11 (7.6%)	4 (6.0%)	1 (7.1%)	5 (9.3%)
鎮痛薬	5 (3.5%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	2 (1.4%)	13 (19.4%)	0 (0.0%)	2 (3.7%)
大麻	11 (7.6%)	3 (4.5%)	8 (57.1%)	4 (7.4%)
コカイン	3 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	3 (2.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	1 (1.9%)
総症例数	144 (100.0%)	67 (100.0%)	14 (100.0%)	54 (100.0%)

(複数回答)

表15-2 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	その他	多剤(医薬品)
覚せい剤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
有機溶剤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
睡眠薬	27 (69.2%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)	7 (36.8%)
抗不安薬	9 (23.1%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	9 (47.4%)
鎮痛薬	1 (2.6%)	2 (18.2%)	8 (72.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)
鎮咳薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	9 (56.3%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
大麻	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
コカイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	2 (5.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (62.5%)	0 (0.0%)
総症例数	39 (100.0%)	11 (100.0%)	11 (100.0%)	16 (100.0%)	16 (100.0%)	19 (100.0%)

(複数回答)

表16 主たる薬物別にみた喫煙状況

	普段の喫煙状況				平均年齢
	喫煙あり	喫煙なし	不明・記載なし	症例計	
覚せい剤	168 (72.1%)	8 (3.4%)	57 (24.5%)	233 (100.0%)	15.4±3.1
有機溶剤	66 (85.7%)	(0.0%)	11 (14.3%)	77 (100.0%)	14.3±1.9
睡眠薬	21 (47.7%)	2 (4.5%)	21 (47.7%)	44 (100.0%)	18.4±4.6
抗不安薬	5 (71.4%)	(0.0%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)	17.4±2.8
鎮痛薬	4 (36.4%)	3 (27.3%)	4 (36.4%)	11 (100.0%)	15.5±4.1
鎮咳薬	8 (50.0%)	(0.0%)	8 (50.0%)	16 (100.0%)	15.3±2.0
大麻	11 (64.7%)	1 (5.9%)	5 (29.4%)	17 (100.0%)	16.6±4.0
その他	10 (50.0%)	2 (10.0%)	8 (40.0%)	20 (100.0%)	15.0±2.9
多剤(医薬品)	4 (25.0%)	(0.0%)	12 (75.0%)	16 (100.0%)	23.8±13.5
多剤(規制薬物)	7 (58.3%)	1 (8.3%)	4 (33.3%)	12 (100.0%)	14.9±2.8
計	304 (67.1%)	17 (3.8%)	132 (29.1%)	453 (100.0%)	15.5±3.5

表17 主たる使用薬物別にみた飲酒状況

	普段の喫煙状況						症例計	飲酒開始 平均年齢
	飲酒歴あり		飲酒せず		不明・記載なし			
覚せい剤	159	(68.2%)	28	(12.0%)	46	(19.7%)	233 (100.0%)	16.5±3.0
有機溶剤	58	(75.3%)	8	(10.4%)	11	(14.3%)	77 (100.0%)	15.4±2.3
睡眠薬	27	(61.4%)	6	(13.6%)	11	(25.0%)	44 (100.0%)	18.7±5.9
抗不安薬	7	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	7 (100.0%)	17.9±2.7
鎮痛薬	6	(54.5%)	3	(27.3%)	2	(18.2%)	11 (100.0%)	18.0±3.1
鎮咳薬	9	(56.3%)	1	(6.3%)	6	(37.5%)	16 (100.0%)	15.9±2.3
大麻	11	(64.7%)	2	(11.8%)	4	(23.5%)	17 (100.0%)	17.4±6.1
その他	12	(60.0%)	2	(10.0%)	6	(30.0%)	20 (100.0%)	18.0±4.4
多剤(医薬品)	11	(68.8%)	1	(6.3%)	4	(25.0%)	16 (100.0%)	18.3±6.1
多剤(規制薬物)	8	(66.7%)	0	(0.0%)	4	(33.3%)	12 (100.0%)	16.6±2.4
計	308	(68.0%)	51	(11.3%)	94	(20.8%)	453 (100.0%)	16.7±3.6

表18 主たる使用薬物別にみた治療開始年齢の分布

	治療開始年齢														計	治療開始 平均年齢
	10~ 14	15~ 19	20~ 24	25~ 29	30~ 34	35~ 39	40~ 44	45~ 49	50~ 54	55~ 59	60~ 64	65≤	不明			
覚せい剤	2 (0.9%)	18 (7.7%)	50 (21.5%)	52 (22.3%)	39 (16.7%)	31 (13.3%)	14 (6.0%)	8 (3.4%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	1 (0.4%)	0	12 (5.2%)	233 (100.0%)	29.6±8.9	
有機溶剤	0	27 (35.1%)	23 (29.9%)	14 (18.2%)	4 (5.2%)	5 (6.5%)	2 (2.6%)	0	0	0	0	0	2 (2.6%)	77 (100.0%)	23.3±6.6	
睡眠薬	0	1 (2.3%)	2 (4.5%)	10 (22.7%)	7 (15.9%)	4 (9.1%)	4 (9.1%)	3 (6.8%)	4 (9.1%)	2 (4.5%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	5 (11.4%)	44 (100.0%)	37.4±11.9	
抗不安薬	0	0	0	3 (42.9%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	0	0	0	0	0	0	1 (14.3%)	7 (100.0%)	29.7±3.0	
鎮痛薬	0	0	2 (18.2%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0	0	0	1 (9.1%)	0	11 (100.0%)	38.3±13.5	
鎮咳薬	0	2 (12.5%)	4 (25.0%)	3 (18.8%)	4 (25.0%)	1 (6.3%)	0	0	0	0	0	0	2 (12.5%)	16 (100.0%)	26.2±5.4	
大麻	0	2 (11.8%)	8 (47.1%)	5 (29.4%)	0	2 (11.8%)	0	0	0	0	0	0	0	17 (100.0%)	24.3±5.5	
その他	0	3 (15.0%)	2 (10.0%)	4 (20.0%)	3 (15.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	2 (10.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0	0	2 (10.0%)	20 (100.0%)	32.0±12.1	
多剤 (医薬品)	0	4 (25.0%)	4 (25.0%)	2 (12.5%)	0	3 (18.8%)	0	1 (6.3%)	0	0	0	0	2 (12.5%)	16 (100.0%)	26.6±8.6	
多剤 (規制薬物)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	5 (41.7%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0	12 (100.0%)	22.8±4.6	

表19 主たる使用薬物別にみた入院形態

	入院形態					入院患者 ではない	対象 例数	入院患者 の比率	記載 なし
	任意入院	医療保護入院	措置入院	その他	計				
(主たる使用薬物)									
覚せい剤	40 (36.7%)	61 (56.0%)	7 (6.4%)	1 (0.9%)	109 (100.0%)	112	221	(46.8%)	12
有機溶剤	12 (50.0%)	12 (50.0%)	0	0	24 (100.0%)	50	74	(31.2%)	3
睡眠薬	11 (47.8%)	9 (39.1%)	3 (13.0%)	0	23 (100.0%)	15	38	(52.3%)	6
抗不安薬	4 (80.0%)	1 (20.0%)	0	0	5 (100.0%)	1	6	(71.4%)	1
鎮痛薬	3 (75.0%)	1 (25.0%)	0	0	4 (100.0%)	7	11	(36.4%)	0
鎮咳薬	7 (63.6%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	0	11 (100.0%)	4	15	(68.8%)	1
大麻	0	3 (100.0%)	0	0	3 (100.0%)	12	15	(17.6%)	2
その他	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0	0	7 (100.0%)	11	18	(35.0%)	2
多剤(医薬品)	13 (100.0%)	0	0	0	13 (100.0%)	2	15	(81.3%)	1
多剤(規制薬物)	2 (25.0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	0	8 (100.0%)	4	12	(66.7%)	0
計	97 (46.9%)	97 (46.9%)	12 (5.8%)	1 (0.5%)	207 (100.0%)		207	(45.7%)	

表20-1 薬物初回使用の契機となった人物

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
(契機となった人物)										
なし(自発的使用)	11 (7.3%)	5 (7.2%)	4 (7.1%)	1 (6.3%)	5 (21.7%)	5 (29.4%)	0	0	2 #####	3 (42.9%)
配偶者	0	1 (1.4%)	0	0	0	1 (5.9%)	0	0	0	0
同棲相手	0	4 (5.8%)	0	0	0	1 (5.9%)	0	0	0	0
恋人・愛人	3 (2.0%)	8 (11.6%)	1 (1.8%)	1 (6.3%)	0	0	0	0	0	0
同性の友人	102 (68.0%)	13 (18.8%)	42 (75.0%)	7 (43.8%)	2 (8.7%)	1 (5.9%)	0	0	0	3 (42.9%)
異性の友人	6 (4.0%)	28 (40.6%)	3 (5.4%)	5 (31.3%)	0	2 (11.8%)	0	0	0	0
知人	16 (10.7%)	4 (5.8%)	5 (8.9%)	0	2 (8.7%)	0	0	0	0	0
医師	0	1 (1.4%)	0	1 (6.3%)	11 (47.8%)	6 (35.3%)	4 (80.0%)	2 #####	0	0
薬剤師	0	0	0	0	1 (4.3%)	1 (5.9%)	1 (20.0%)	0	0	1 (14.3%)
親	0	0	0	0	2 (8.7%)	0	0	0	0	0
同胞	3 (2.0%)	0	1 (1.8%)	0	0	0	0	0	0	0
密売人	6 (4.0%)	2 (2.9%)	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3 (2.0%)	3 (4.3%)	0	1 (6.3%)	0	0	0	0	0	0
症例数	150 (100.0%)	69 (100.0%)	56 (100.0%)	16 (100.0%)	23 (100.0%)	17 (100.0%)	5 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	7 (100.0%)

表20-2 薬物初回使用の契機となった人物

(契機となった人物)	主たる使用薬物							
	鎮咳薬		大麻		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
なし(自発的使用)	1 (10.0%)	0	1 (9.1%)	0	1 (50.0%)	1 (12.5%)	1 (16.7%)	1 (25.0%)
配偶者	0	0	0	0	0	0	0	0
同棲相手	0	0	0	0	0	0	0	1 (25.0%)
恋人・愛人	0	1 (33.3%)	0	1 (16.7%)	0	0	0	2 (50.0%)
同性の友人	7 (70.0%)	0	7 (63.6%)	3 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (12.5%)	3 (50.0%)	0
異性の友人	0	2 (66.7%)	0	1 (16.7%)	0	0	0	0
知人	1 (10.0%)	0	0	1 (16.7%)	0	1 (12.5%)	1 (16.7%)	0
医師	1 (10.0%)	0	0	0	0	4 (50.0%)	0	0
薬剤師	0	0	0	0	0	0	0	0
親	0	0	0	0	0	0	0	0
同胞	0	0	0	0	0	0	0	0
密売人	0	0	2 (18.2%)	0	0	0	1 (16.7%)	0
その他	0	0	1 (9.1%)	0	0	1 (12.5%)	0	0
症例数	10 (100.0%)	3 (100.0%)	11 (100.0%)	6 (100.0%)	2 (100.0%)	8 (100.0%)	6 (100.0%)	4 (100.0%)

表21-1 薬物初回使用の動機

(動機)	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
刺激を求めて	34 (15.5%)	9 (9.7%)	12 (14.1%)	2 (13.3%)	1 (3.4%)	2 (7.4%)	0	0	1 (25.0%)	1 (10.0%)
好奇心	121 (55.3%)	37 (39.8%)	43 (50.6%)	7 (46.7%)	3 (10.3%)	3 (11.1%)	0	0	1 (25.0%)	2 (20.0%)
自暴自棄になって	6 (2.7%)	9 (9.7%)	3 (3.5%)	0	2 (6.9%)	2 (7.4%)	1 (25.0%)	0	0	0
断り切れずに	13 (5.9%)	17 (18.3%)	12 (14.1%)	1 (6.7%)	1 (3.4%)	2 (7.4%)	0	0	0	1 (10.0%)
覚醒効果を求めて	11 (5.0%)	3 (3.2%)	0	0	0	0	0	0	0	1 (10.0%)
疲労の除去	11 (5.0%)	2 (2.2%)	1 (1.2%)	0	3 (10.3%)	1 (3.7%)	0	0	0	0
性的効果を求めて	5 (2.3%)	2 (2.2%)	2 (2.4%)	0	0	0	0	0	0	0
ストレス解消	10 (4.6%)	3 (3.2%)	7 (8.2%)	1 (6.7%)	5 (17.2%)	1 (3.7%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	0	0
不安の軽減	3 (1.4%)	3 (3.2%)	2 (2.4%)	2 (13.3%)	2 (6.9%)	6 (22.2%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	0	0
不眠の軽減	1 (0.5%)	0	0	0	11 (37.9%)	8 (29.6%)	1 (25.0%)	0	0	0
疼痛の軽減	0	1 (1.1%)	0	0	1 (3.4%)	2 (7.4%)	0	0	2 (50.0%)	4 (40.0%)
咳嗽の軽減	1 (0.5%)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (10.0%)
その他	3 (1.4%)	7 (7.5%)	3 (3.5%)	2 (13.3%)	0	0	0	0	0	0
症例数	219 (100.0%)	93 (100.0%)	85 (100.0%)	15 (100.0%)	29 (100.0%)	27 (100.0%)	4 (100.0%)	2 (100.0%)	4 (100.0%)	10 (100.0%)